

観光地 温泉足りない



嬉野温泉の足湯に漬かる観光客ら
11月、佐賀県嬉野市

自治体 掘削抑え「節湯」促す

各地の温泉で源泉水位の低下が深刻化している。インバウンド(訪日客)増加でくみ上げ量が増えたことなども原因とみられ、湯を十分確保できなくなつて廃業する温泉施設も出ている。地元自治体が源泉の新規掘削を制限したり、業界に「節湯」を促したりしているが、抜本策はなく、関係者は苦慮している。

源泉水位低下

「水位は下がるも源泉は維持できている」。1月24日、佐賀県・嬉野温泉の水位低下を踏まえて開いた緊急会見で村上天祐嬉野市長は強調したが、昨年、源泉の平均水位は40・8センチと過去最低を記録している。県は、西九州新幹線開業に伴う観光客増で、湯の使用量も増えたことが主な原因と分析し、温泉地全体で1日当たりのくみ上げ量を目標の2800トに抑えるよう旅館などに要請。昨年比1割減を目指し、旅館は深夜帯の客室内風呂の利用自粛要請など対策を講じ、

ニセコ(北海道)	源泉の保護地域を指定
津(群馬)	井戸の掘削時、町に事前申請を求めた条例を施行
箱根(神奈川県)	地下水や温泉の井戸の水位、水量のモニタリングを実施
嬉野(佐賀)	県による節湯要請、一部旅館で日帰り入浴を制限
別府(大分)	温泉マネジメント計画を策定。将来の湯量などをシミュレーション

徐々に水位が回復してきているという。

敷地内に源泉がある旅館「大正屋」副社長で、旅館組合の山口剛理事長は「客はかなり増えているが、県ホテルや旅館が温泉井戸を掘削。湯の使用量が

増えているのはなぜですか。増えており、同町の担当者は一週と協力して、貴重な観光資源である温泉を持続させていきたいと話した。源泉数日本一の大分県の別府市では、数十年前から徐々に源泉水位が低下。県や環境省によると、別府でくみ上げられる温泉水の大半分は、雨水が地中の熱で温められるなどしたもので、量が限られている。同市は、水位低下の原因は過剰利用とみて、22年4月、源泉の新規掘削を認めない「特別保護地域」を拡大した。た

Q ズーム
源泉
地中から温泉が湧いてくる場所。自然の力で湧き出す「自噴泉」と、井戸を掘り、ポンプなどで機械で圧力をかけて地下からくみ上げる「動力泉」の大きく二つに分類できる。温泉旅館や

が要請するほど水位が低下していたことには驚いた」と話す。水位低下は各地で起きている。青森県で日帰り温泉施設を経営していた男性は「源泉掛け流し」で県外客からも人気だったが、湯のくみ上げが困難になり、2022年5月に施設を廃業した。地中千メートル掘った井戸の水位が毎年1〜2センチずつ低下。近くで新たな井戸を掘削したが、温度や湯量が十分でなく、営業を継続できなくなった。

北海道ニセコ町などを含むニセコ地区では近年、外国人スキー客を当て込んだホテルや旅館が温泉井戸を掘削。湯の使用量が要した」と指摘した。

2025年3月16日付18面

* 習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説 廃業(はいぎょう) 施設(しせつ) 掘削(くつさく) 促(うなが)したり 抜本策(ばつぽんさく)=根本(こんぽん)の原因を抜き去る工夫 苦慮(くりよ) 維持(いじ) 嬉野(うれしの) 踏(ふ)まえ 緊急(きんきゅう) 伴(ともな)う 分析(ぶんせき) 抑(おさ)える 要請(ようせい)=こうしてほしいとたのむこと。強く願ひ出ること 風呂(ふろ) 自粛(じしゅく)=自分の行いや態度をつつしむこと 徐々(じょじょ) 敷地(しきち) 驚(おどろ)いた 掛(か)け流(なが)し 掘(ほ)った 継続(けいぞく) 含(ふく)む 当て込(こ)んだ=そうなるだろうと見込む 環境省(かんきょうしょう) 過剰(かじょう) 採掘(さいくつ) 代替(だいたい) 分析(ぶんせき) 徹底(てつてい) 無駄(むだ) 指摘(してき)